

リニア建設 現地からの告発!

1. 南アルプスからのSOS

講師 前島久美さん
大鹿の10年先を変える会

【講師紹介】2010年にリニア計画が具体化したのをきっかけに、生家の旅舎うまのじょう「右馬允」に携わりつつ、村内でリニア問題について積極的に発言し、小さな村を襲う大規模公共的事業と自治のあり方を模索しておられます

2. 横柄なJR東海に対峙する静岡県

講師 松谷清さん
「南アルプスとリニア新幹線を考える市民ネットワーク静岡」共同代表 静岡市議

【講師紹介】長年市議を務められ、市民運動にも熱心に取り組んでおられます

日時 6月29日(土) 13:30~16:30

13:00 開場 17:00 閉場

労働会館 東館ホール (名古屋市熱田区沢下町9-7)

(金山駅東口を出て「金山橋交差点」を南東へ徒歩10分 裏面地図参照)

資料代 700円 (学生無料)

【主催】リニアを問う愛知市民ネット
連絡先 090-3384-7003 (小林)



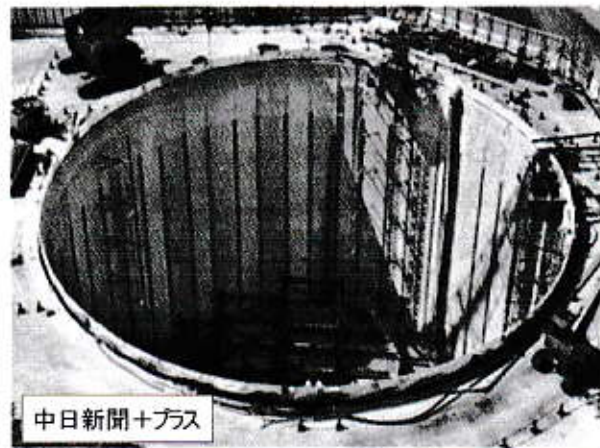
大鹿村のリニア建設現場を案内する前島さん(右端)

リニア新幹線建設工事は危険が一杯

私たちが全国約738名の仲間とともに東京地裁に提訴した「ストップ・リニア！訴訟」は、5月20日に4年目を迎えます。この裁判を通じて、私たちは、リニア中央新幹線の工事が、沿線の住民の生命と健康、そして暮らしと環境問題にいかにか大きな悪しき影響をもたらすかを主張してきましたが、この間、JR東海によって強行されてきた工事は、くしくも、私たちの主張を次々と証明しつつあります。

私たちの身近では、愛知県庁近くの名城東小公園で掘られている非常口で、出水事件が起き、工事が約10ヶ月中止されることになりました（3月16日にメディアによって一斉報道。下図参照）。濃尾平野の地下は多様に地下水系があって、出水しやすい地層であることは多くの識者が指摘していますが、こんな事態になったのは、JR東海がやったという環境アセスメントがいかにかいい加減であったかを示すものです。

リニア非常口工事、中断 名古屋、地下から出水で



地下からの出水の影響で掘削工事が中断している「名城非常口」は15日午後、名古屋市中区で

中日新聞+プラス



今回の講座では、沿線全体の中で、特に2つの現地から報告を受けます

1) 南アルプスの雄大な自然に囲まれた日本で最も美しい村の一つ、大鹿村では、JR東海は、村を横断するリニア工事で排出される土砂の置き場探しに懸命になっていますが、1961(昭和36)年6月に伊那谷を襲ったいわゆる「三六集中豪雨」によって、壊滅的な被害を受け、最終残土置き場を容認する空気はなく、すべてが「仮置き場」として、村内各所に土砂の山が築かれています。また、そこを走り回る大型ダンプの通行も大問題になっています。事態は、福島原発事故周辺の除染土の置き場と全く同じ状況を示しています。今回は、2010年にリニア計画が具体化したのをきっかけに、生家の旅舎「右馬允(うまのじょう)」に携わりつつ、村内でリニア問題について積極的に発言しておられる前島久美さんに、講師をお願いすることができました。

2) JR東海の杜撰な環境アセスメントによっても、南アルプスのトンネル工事で大井川の水量が毎秒2トン減ると予測されたことは有名です。この対策をめぐって静岡県とJR東海が衝突しています。また最近では、富士川河口(駿河湾沿岸部)の桜エビの不漁が、上流山梨県内でのリニア工事によるものではないかという疑惑が起こり、川勝静岡県知事が山梨県知事に調査を依頼しています。県内に駅計画がなく、工事の被害だけを受ける静岡県の態度は、リニア工事の進捗に大きな影響を与えます。こうした事情について、長年静岡県で地方議員を務められ、リニア反対運動にも取り組んでおられる松谷清さんに語っていただきます。